

# 平成18年度 事業報告書

## I 一般事業の概要

- 調査研究事業については、奈良・松戸事業をフィールドとした調査・研究を行いました。
- 助成事業については、介護福祉士等を目指す専門学校生等へ引き続き奨学金助成を行いました。

### 1. 調査研究事業

- (1) 生きがい増進
  - ・地域を含めた生きがい増進の活動拠点である『高齢者総合福祉センター』で、文化教養講座、カルチャー教室、コンサート等を実施しました。
- (2) 福祉サービス
  - ・奈良・松戸両有料老人ホームにおける入居者のCS向上を図るための接遇向上取組を、昨年度に引き続き現場職員が主体となって推進しました。
- (3) 総合生活支援サービス
  - ・地域に密着した事業推進を目的として、奈良施設においては奈良新聞社の企画した中高齢者対象のイベントに協賛すると共に、松戸施設においては地域住民も対象とした講演会を開催いたしました。
  - ・また、財団ホームページについて法改正等への対応を図るとともに、利用者にとって見やすく、かつアクセス増に資する改訂を行いました。
- (4) まちづくり
  - ・有料老人ホームの長期的な修繕計画の検証、各事業の効率化方策等に関し、「収支改善課題検討プロジェクト」の一環として検討を進めました。
  - ・また、事業収支シュミレーションシステムについて、機能拡大に取り組みしました。

### 2. 助成事業

- 介護マンパワーの育成を支援する観点から、介護福祉士・理学療法士・作業療法士を目指す専門学校生等への奨学金助成を行いました。
- 1名当たり助成金は年間24万円、年間対象者は50名です。

## II 特別事業の環境・業界動向について

- 有料老人ホーム事業では、平成18年4月の介護保険制度改正と併せ、老人福祉法の「有料老人ホームの規定」の改正や厚生労働省が定める「有料老人ホーム設置運営標準指導指針」の改正が行われました。
- こうした法改正を受けて、有料老人ホームも低価格型から高級型まで様々なタイプが出現している一方、高齢者専用賃貸住宅も増加しており、入居者確保の競争も更に激化してきました。
- 在宅介護・看護関連事業では、介護保険制度改正と同時に介護報酬・診療報酬の改定も行われましたが、

給付抑制を目的とした今回の改定の影響によって大きな打撃を受け、事業の再構築に取り組む事業者も現れました。

## III 特別事業の概要

- 開設15年目の奈良事業では、①介護保険・医療保険改正に伴う体制作り、②利用者の視点に立ったサービスの提供、③コンプライアンス体制の確立、④人材育成・人材活用、⑤地域との連携・交流、⑥経営基盤の安定化を重点課題として取り組みました。
- 開設10年目の松戸事業では、一般居室がほぼ満室となり、安定期を迎える一方で、入居者の加齢と共に要介護等認定者数が急増し、一般居室での介護サービス量も増加しました。重点課題として、①介護保険制度改正等に伴う各種サービスの質の向上、②人材の育成、③リスク管理体制の強化、④地域との交流及び他事業者との連携強化に取り組みました。
- 奈良・松戸両施設内において、遺憾ながら冬期ノロウイルス感染症が発生し、その感染拡大防止に向けた取組強化を行いました。
- 在宅事業、老人保健施設では、介護報酬改定の影響並びに地域での同業他社との競合激化により、事業収入が対前年大幅減少となりました。
- 事業環境が厳しくなる中、運転資金として新たな資金の借入を行なう一方、収支の改善に向けた検討取組を本部・施設が一体となって推進しました。

### 1. 奈良事業

#### (1) 有料老人ホーム関連事業

- ① 有料老人ホーム [ 特定施設入居者生活介護事業 ] 【奈良ニッセイエデンの園】
  - ・一般居室の募集実績9戸の結果、年度末の入居契約数は374戸(94.2%)となりました。  
(一般居室353戸/362戸(97.5%)、介護居室21戸/35戸(60%))
  - ・入居者の平均年齢は79.6歳(男性79.8歳、女性79.5歳)で前年度比0.5歳上昇しました。
  - ・総入居者数475名のうち要介護等認定者数は、年度末95名と前年より3名の減少となりました。  
(月平均要介護等認定者数100名・対前年5名減、月平均介護保険請求者数92名・対前年3名減)
  - ・介護保険制度改正に対応した人員体制の再構築、個人情報保護の徹底、リスクマネジメントの推進に取り組みました。
  - ・介護予防に向けた取組では、「いきいきサロン」や介護予防教室を定期的で開催し、介護予防に対する意識の向上に努めました。
- ② 診療所 【ニッセイ聖隷クリニック】
  - ・診療報酬の改定に続き療養病床入院基本料の実質引下げが行われ、厳しい事業環境が続く中、利用者の視点に立ったサービスの提供に努めました。
  - ・人間ドックでは、利用者増加を狙いとして婦人科健診の導入検討、土曜ドックの試行的実施等を行いました。(1日平均外来患者数74名・対前年5名減、1日平均入院患者数16名・対前年±0)
- ③ 疾病予防運動センター 【ニッセイ・アーク西大和】
  - ・年度末外部会員数は658名(対前年14名減)と、前年度より減少したものの月平均ではほぼ前年度

を維持することができ、経費の効率化に努めた結果、収支差額では前年より改善することができました。(月平均利用回数 6471 回、うち入居者の月平均利用回数 713 回)

#### ④ 高齢者総合福祉センター 【ふれあいプラザ】

- ・文化教養講座では、人気のある歴史関連講座の参加型の新企画として、「春と秋の現地見学」の実施のほか、絵手紙教室、フラワーアレンジメント等、幅広いジャンルの創作講座を開催しました。
- ・音楽鑑賞会では、ソプラノ歌手、楽器演奏等による生の演奏会を開催し、好評を得ました。

## (2) 在宅介護・看護関連事業

### ① 在宅介護サービスセンター [訪問介護、福祉用具貸与事業] 【ニッセイせいれい在宅介護サービスセンター 西大和店・奈良店】

- ・西大和店、奈良店ともに、介護保険制度改正による介護認定の見直し等により、訪問介護・福祉用具貸与の利用者数は対前年減少となりました。

西大和店：月平均全利用者数 103 名・対前年 23 名減、月平均訪問時間 1276 時間・対前年 208 時間減  
奈良店：月平均全利用者数 102 名・対前年 8 名減、月平均訪問時間 1433 時間・対前年 110 時間減

### ② 訪問看護ステーション [訪問看護事業] 【訪問看護ステーション西大和・奈良】

- ・西大和店では、医療保険対象者の利用者数・訪問件数は増加したものの、介護保険対象者の大幅な減少により、全体の利用者数、訪問件数ともに対前年減少となりました。
- ・奈良店では、利用者数はわずかに前年を上回ることができましたが、訪問件数では西大和店同様、対前年減少となりました。

西大和店：月平均利用数 67 名・対前年 7 名減、月平均訪問件数 469 件・対前年 36 件減  
奈良店：月平均利用数 41 名・対前年 1 名増、月平均訪問件数 257 件・対前年 9 件減

### ③ ケアプランセンター [居宅介護支援事業] 【ニッセイせいれいケアプランセンター西大和・ニッセイせいれい在宅介護サービスセンター 西大和店・奈良店】

- ・介護保険制度改正により、ケアプランの標準担当件数がケアマネジャー 1 人当たり、介護給付 35 件、予防給付 8 件と決められ、一定数を超えた場合は減算になるなど、ケアマネ業務の質の向上が更に求められるようになりました。
- ・西大和店、奈良店ともに、サービス提供体制の向上に努める一方、ケアプラン作成件数(介護給付)は対前年減少となりました。

(月平均ケアプラン作成件数(除く予防給付) 西大和店 186 件・対前年 52 件減、奈良店 78 件・対前年 33 件減)

### ④ デイサービスセンター 【河合町デイサービスセンター】(河合町受託)

- ・利用者・家族向けのアンケートの実施、連絡ノートの見直しを行い、利用者・家族のニーズに沿ったサービス提供に努めました。また、小学生の体験学習、実習生・ボランティアの受け入れも行いました。(月平均利用者数 17 名・対前年±0)

## (3) 老人保健施設 [介護老人保健施設] 【奈良ベテルホーム】

### [通所リハビリテーション、短期入所療養介護]

- ・平成 18 年 4 月の介護保険制度の改正では、介護予防の新設、介護報酬の減額、通所リハビリテーションにおける大規模事業所の減算等、いずれも収入の減少に繋がるものでした。そのような中、利用者の生きがい作りを重視し、生活の場の提供・在宅復帰の支援という 2 つの視点に立ってサービスの

提供に努めてきました。

- ・通所リハビリテーションの利用者確保と認知症フロアの稼働率の伸び悩みが課題となっており、周辺病院や居宅介護支援事業者への利用者紹介依頼の渉外活動に継続して取り組み、下期の利用者増加傾向に繋がりました。

(1 日平均入所利用者数 101 名・対前年 1 名増、1 日平均通所利用者数 31 名・対前年 4 名減)

## 2. 松戸事業

### (1) 有料老人ホーム関連事業

#### ① 有料老人ホーム [特定施設入居者生活介護事業] 【松戸ニッセイエデンの園】

- ・一般居室の募集実績 12 戸の結果、年度末の入居契約数は 333 戸 (96.0%) となりました。

(一般居室 308 戸/310 戸 (99.4%)、介護居室 25 戸/37 戸 (67.6%))

- ・総入居者数 440 名のうち要介護等認定者数は、年度途中増加したものの、年度末では 78 名と前年と同数でした。

(月平均要介護等認定者数 83 名・対前年 13 名増、月平均介護保険請求者数 72 名・対前年 8 名増)

- ・入居者の平均年齢は、78.7 歳 (男性 79.5 歳、女性 78.4 歳) となり前年度比 0.8 歳上昇しました。
- ・介護予防サービスでは、一般居室における「転倒予防教室」、「脳いきいき教室」、「健口体操」等、介護居室では「失禁予防体操」、「認知症予防の運動」等を日々のアクティブに取り入れました。
- ・経費削減と災害時用飲料水の確保を目的とした省エネルギーシステム導入工事に着手しました。

#### ② 診療所 【松戸ニッセイ聖隷クリニック】

- ・入院患者数は増加したものの、外来患者数は対前年減少となりました。
- ・有料老人ホームの入居者を対象に、作業療法士を中心とした運動機能の評価と転倒予防体操講習会を年 2 回開催いたしました。また、疾患別検査セットの導入や定期健診後のフォローアップを行いました。

(1 日平均外来患者数 47 名・対前年 6 名減、1 日平均入院患者数 10 名・対前年 2 名増)

#### ③ 疾病予防運動センター 【ニッセイセントラルフィットネスクラブ 松戸】

- ・入会会員数が前年度実績を上回ったものの、退会会員数も多かったため、年度末外部会員数は 1651 名 (対前年 53 名減) と対前年減少となりました。

(月平均利用回数 10162 回、うち入居者の月平均利用回数 794 回)

#### ④ 高齢者総合福祉センター 【ニッセイ松戸アカデミー】

- ・音楽大学生やプロ演奏家を招いたロビーコンサートは毎回多くの参加を得ました。バスツアーは「音楽会とグルメ」等の都市型企画が好評を博し、また、講演会では「金銭信託」や「財産管理」のテーマに人気が集まりました。

### (2) 在宅介護関連事業

#### ○ 在宅介護サービスセンター 【在宅介護サービスセンター 西大和店・奈良店】

##### ① デイサービス事業 [通所介護事業] 【ニッセイエデンデイサービスセンター】

- ・年度途中で月間延べ利用者 300 名未満の小規模型を指向した取り組みを行った結果、介護給付の平均利用者数は対前年を下回りました。

(1 日当たり平均利用者数：介護給付 12 名・対前年 5 名減、1 月当たりの平均利用者数：予防給付 5 名)

##### ② ホームヘルプサービス事業 [訪問介護事業] 【ニッセイエデンヘルパーステーション】

- ・訪問回数は増加したものの、訪問時間は対前年大幅に減少しました。 土日や早朝、夜間帯の時間外ケアについては、慢性的なヘルパー不足もあって、利用者の需要に充分対応できなかった点が課題となりました。(月平均訪問回数 590 回・対前年 22 回増、月平均訪問時間 778 時間・対前年 115 時間減)

③ ケアプランセンター      【居宅介護支援事業】      【ニッセン介護プランセンター】

- ・前年並みのケアプランを作成しましたが、1人体制の限界もあり、一層のサービスの向上と効率化を狙いとし、3月末を持って事業を閉鎖し、隣接する松戸愛光園(社会福祉法人聖隷福祉事業団経営)の居宅介護支援事業所へ事業を移管しました。(月平均ケアプラン作成件数(除く予防給付)33件・対前年3件減)